

成人ぜんそく患者医療費 長

助成見直し検討 市

川崎市の福田紀彦市長は24日、成人ぜんそく患者に対する医療費助成制度について「制度の歴史的経過やほかの疾患の医療費助成とのバランスを考慮し、今後の制度のあり方について検討したい」と述べ、見直しも含めて検討する見解を示した。同日の市議会定例会本会議で、無所属の三宅隆介氏（多摩区）の一般質問に答えた。

市は、1991年から川崎区と幸区に住む市民に対し、成人呼吸疾患医療費助成制度を行ってきたが、2007年に全区を対象にした現在の制度を導入。満20歳以上で市に引き続き1年以上居住する市民を対象に、気管支ぜんそくと診断され喫煙をしないことを条件に、医療費の一部を助成している。同制度の対象者

は3月現在で5842人。本年度予算で約1億8550万円計上している。

三宅氏は「アレルギー対策としているが、ぜんそくだけに医療費助成があり、ほかにはないのは不公平」などと指摘。福田市長は「アレルギー性疾患をはじめ、ほかの疾病との公平性といった観点から多種多様な意見があると考えている」などと答え、あり方を検討するとした。（鈴木 昌紹）